

生薬学の伝統と革新—教育・研究・臨床の立場から

伊藤美千穂

A Heritage of Pharmacognosy and Its Innovation—Trials from Academic, Investigative and Clinical Perspective

Michiho ITO

Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University, 46-29 Yoshida-Shimoadachi-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8501, Japan

本シンポジウムは前回の日本薬学会第129年会(京都)でのシンポジウムに引き続き、生薬学の現状を見つめなおし、将来像を考える機会を持つと若手を中心となって企画したものである。第129年会のシンポジウムS14では、変革期にある薬学の教育と研究の場において生薬学に求められている将来像を、各シンポジストの講演とフロアからの発言を含めた総合討論によって考えた。満席の会場から多数の意見が提示され、熱気に包まれた討論会となった。これを受けて第130年会シンポジウムS45では、生薬学に期待されるベクトルを意識した上で、生薬学の伝統とこれを軸として展開される教育と研究及びそれらの革新的発展の方向性について、産官学それぞれの立場からの意見をシンポジストが述べ、総括を総合討論の場で練り上げようと計画した。局方の国際調和や伝統医療に対する国際的な関心の高まりを背景に、生薬に携わる多くの人々が本シンポジウムをきっかけとして、創薬から医療にわたる様々な場面での生薬学のあり方を考え、その将来像構築の一助となることを期待する。

具体的には、伊藤の趣旨説明の後、下記の内容で各シンポジスト(敬称略)が講演した。

- 1) 「生薬学と医療薬学の融合—『臨床生薬学』の紹介」名古屋市立大学大学院薬学研究所生薬学分野 牧野利明
- 2) 「薬剤師から見た『生薬学』とは」徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部臨床薬

剤学分野 川添和義

- 3) 「山科植物資料館の歴史とその取組み—製薬企業の薬用植物園の一例」日本新薬株式会社山科植物資料館 山浦高夫
- 4) 「生薬・薬用植物における国際調和の動向について」独立行政法人医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター 川原信夫

1), 2)では薬学の中で有機系に分類されがちな生薬学領域を、臨床系の研究、また教育の立場から論じ、薬学6年制教育の新たなキーワードとして挙げられる「漢方」の重要性、特殊性などについて考える機会となった。薬学6年制教育の中での生薬学の存在意義、また漢方医薬学の取り扱いや教育内容については様々な意見があり、前回のシンポジウムでも非常に関心の高かった話題であるが、1), 2)の講演内容は、薬系大学関係者が頭を悩ませている現状に新たな視点を加えるものであったと思われる。生薬学、漢方医薬学の教育内容については、教科担当教員会議の場などでも大きく取り上げられているが、今後も引き続きシンポジウムの場などでも議論していくべき課題であろうと思われる。

3), 4)の講演では、植物由来のものが大多数を占める生薬を取り扱う上で重要項目となる基原、つまり薬用植物に関する話題を産官の観点から提供して頂いた。すなわち、しばしば製薬企業の社会貢献活動の一環として位置づけられる企業内薬用植物園の機能と活動の可能性について、及び、医薬品として生薬を取り扱う東アジア4ヵ国(日本、韓国、中国、ベトナム)での薬局方生薬部分の国際調和に関する活動の状況についての講演を頂いた。いずれも大学附属以外の薬用植物園からの立場での講演であ

ったが、シンポジウム参加者には大学教員も多く、総合討論では大学附属の薬用植物園の現状認識に関する発言が多数あった。しかし、すべての薬系大学には薬用植物園の設置基準が定められているものの、その現況は大学毎に大きく異なっているという背景があるため、園の活動状況や運営に関しては議論することが難しく、直後に予定されていた国立大学薬用植物園園長会議に討論を委ねた。さらに総合討論では、薬用植物の遺伝子資源保存・維持・活用などについても要望が述べられ、生薬の利用、研究、教育を支える重要な役割を薬用植物園が担っているということを再確認した。

生薬学の研究と教育の方向性、分野としての発展の可能性や影響力といったことは、これに携わる若手研究者にとっては常に大きな関心事であると同時に、自分たちの将来性にも係わる重要な要素を含んでいる。本シンポジウムで取り上げた内容は、いずれも生薬学のこれまでの伝統を基盤として、現代科学の潮流の中に生薬・薬用植物の存在を革新的に映し出す方法について示唆に富むものであったと思われる。

最後に誌上シンポジウムに御寄稿下さったシンポジスト各位に御礼申し上げます。